

学 位 論 文 要 旨

氏 名 松浪 軌道

題 目 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業開発研究
—社会事象の経済学的な説明をめざして—

1 研究の目的と意義

本研究の目的は、経済分析を行う上で不可欠な価格理論を組み込み、子どもが社会事象を経済的に説明できる小学校社会科授業を開発することである。現在の小学校社会科授業は、次に示す2点の課題をもつ。

- (1) 社会認識の形成をめざし、社会事象を多面的に説明する小学校社会科授業が、日々開発、実践されている。しかし、社会事象の経済学的な説明に関しては、経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容が取り扱われていない。
- (2) 小学校社会科授業では、経済的な学習内容が含まれているものの、経済に関する用語のみが使用され、その内容は自明のものとして取り扱われている。したがって、授業者も子どもも、経済に関する用語の内容を正確に理解せず、誤解したまま使用し続けることが危惧される。

本研究の意義は、価格理論における利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込み、子どもが社会事象を経済的に説明できる小学校社会科授業を開発することで、上記の課題①及び②を乗り越えられることである。

2 研究の概要

(1) 小学校社会科授業における経済的な学習内容の課題とその改善の方向性の提示

先行研究を基に、社会事象の経済学的な説明を「経済概念（経済学の研究成果が組み込まれた法則性をもつ内容）を組み込んで、社会事象間を原因－結果、目的－手段、条件－状況の関係で示した言明である。」と定義した。また、小学校学習指導要領〔社会〕に対応した解説編や指導書及び本研究に関する小学校社会科先行授業を分析し、経済的な学習内容の課題を抽出した。そして、経済的な学習内容を精緻化するため、価格理論に着目し、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業を開発するという方向性を示した。

(2) 価格理論を組み込んだ小学校社会科内容構成論の構築

まずは、価格理論の概要を整理し、その構造を明らかにした。そして、先行研究を基に、価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を明らかにした。その具体的な方法は、次に示すとおりである。

- ① 教材と子どもとの近接化
 - A 小学校段階の子どもが理解できる日常用語の使用
 - B 子どもにとって身近な素材の選定
 - C 認知的不協和の誘発や知的好奇心の刺激を基にした学習課題の設定
- ② 数値または概念地図による表現を用いた検証資料の作成

次に、上記の方法を基に、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を、小学校社会科授業の内容に変換した。さらに、学習課題の設定や検証資料の作成をとおして、それぞれの経済概念を組み込んだ小学校社会科授業の内容を構成した。

(3) 価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の開発

価格理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容構成を基に、次の4点の授業モデルを開発した。

① 利潤概念を組み込んだ小学校地域学習

第4学年「兵庫県南あわじ市のレタス作りとたまねぎ作り」

② リスク概念を組み込んだ小学校産業学習 第5学年「高知県のナス作り」

③ 需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習 第6学年「大正時代の米価上昇」

④ 費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習 第6学年「名塩道路と政治の働き」

また、①～④の授業モデルの実践結果を分析した。その結果、本時の目標に到達している割合や人数は、次に示すとおりであった。

① 利潤概念を組み込んだ小学校地域学習 … 96.3% (26人/27人)

② リスク概念を組み込んだ小学校産業学習

・利潤概念を組み込んだ授業 … 91.5% (54人/59人)

・リスク概念を組み込んだ授業 … 87.7% (50人/57人)

③ 需要・供給理論を組み込んだ小学校歴史学習 … 94.3% (33人/35人)

④ 費用・便益理論を組み込んだ小学校公民学習 … 97.1% (34人/35人)

例えば、利潤概念を組み込んだ小学校地域学習における本時の目標は、「兵庫県南あわじ市では、レタス作りのもうけは10aあたり33万円(売上60万円-費用27万円)、たまねぎ作りのもうけは10aあたり13万円(売上38万円-費用25万円)で、レタス作りの方がもうかるから、たまねぎより費用のかかるレタスの作付面積が増えていることが分かる。」である。96.3%とは、この目標に27人中26人の子どもが到達していることを表している。

3 研究の成果と課題

本研究の成果は、次の4点である。

(1) 社会科授業における社会事象の経済学的な説明を定義し、その構造を明らかにすることができた。

(2) 価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を明らかにすることができた。

(3) 価格理論を小学校社会科授業の内容に変換する方法を基に、利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業の内容を構成することができた。

(4) 利潤概念、リスク概念、需要・供給理論、費用・便益理論を組み込んだ小学校社会科授業モデルを開発し、実践結果を分析することで、その有効性を証明することができた。

今後の課題は、次の3点である。

(1) 小学校社会科授業に組み込む経済概念の種類を増やす。

(2) 小学校社会科授業を開発する領域を拡大する(本研究では、小売業、工業、情報産業での授業開発はできていない)。

(3) 中学校社会科授業との接続について検討する。